

政策評価書（要旨） （事後の事業評価）

事業名	新戦車	担当部局	経理装備局艦船武器課
政策体系	4-1 研究・開発	実施時期	平成21年11月～平成22年3月

事業の内容 現有戦車の後継として、ライフサイクルコストを含めた経費を抑制しつつ、火力・機動力・防護力等の向上を図るとともに、IT革命に対応した高度なC4I機能等を付加させた新戦車を開発する。 (IT: Information Technology 情報技術) (C4I: Command, Control, Communications, Computers, and Intelligence 指揮・統制・通信・コンピュータ及び情報)	事前評価時（概算要求時）								
	14	15	16	17	18	19	20	21	完了年度
			試作					21年度	
					試験			経費総額	
								約513億円	
実施結果									
14	15	16	17	18	19	20	21	完了年度	
			試作					21年度	
					試験			経費総額	
								約484億円	

評価の内容 事業の目的 将来戦において優位な態勢を確立するには、高度なC4I機能、対象戦車を撃破できる火力、高い機動性及び総合的な防護力等が必要となるため、各種の能力を向上させ全国配備に適した新戦車を開発し、将来戦においても有効な対機甲戦闘・機動打撃及び特殊部隊攻撃対処等が行い得るようすることを目的とする。
--

②達成時期 平成14年度から試作に着手し、当初の計画どおり平成21年度までに技術試験及び実用試験を終了し、開発を完了した。

今後の対応 今後、戦車部隊への整備を進める予定である。

達成状況 ①達成効果 以下の技術的課題を達成したことにより、火力・機動力・防護力等を向上するとともに、高度なC4I機能等を付加した新戦車を開発することができた。 ア 戦闘力の総合化 イ 火力性能の向上 ウ 機動力の向上 エ 防護力の向上 オ 小型・軽量化 カ ライフサイクルコストの抑制

③教訓等事項 小型・軽量化をしつつ各種の能力の向上及び将来の拡張性の確保を実現し、技術基盤の育成に大きく寄与したものと考える。

その他の参考情報 平成13年度 事前評価「新戦車」
